

令和 2 年度 公益社団法人益田市医師会 事業報告

中長期計画（実施計画）について

1 在宅を中心とした安心して住める環境づくり			計画年度			事業本部・その他	病院事業部	くにさき苑事業部
推進課題	対応方針	実施計画（評価指標）	02	03	04	事業報告	事業報告	事業報告
1-1 社会保障制度の 流れと地域の特 性、ニーズに対応 したシステムの整 備・推進	①情報の収集・調査分析	a.国・県・市町村・日本医師会等情報の収集と調査・分析	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.収集した重点情報について医師会全体で共有 【統括部】 1.診療報酬の改定（令和 2 年）の情報を注視し、早期に対策を検討した 2.介護報酬の改定（令和 3 年）、益田市介護保険事業計画（令和 3 年度）えっとまめなプランについての情報を収集し必要な対応等を検討した	1.診療報酬改定（令和 2・4 年度） 令和 2 年度診療報酬改定に対応 ・せん妄ハイリスク患者ケア加算 算定開始 2.介護報酬改定（令和 3 年度） ・科学的介護情報システム（LIFE）への対応について定期的会議開催 3.第 8 次医療計画（島根県地域医療構想の見直し） 4.第 8 期益田市介護保険事業計画（令和 3 年度）えっとまめなプラン） 5.働き方改革への対応を本部と共働き検討（医師の働き方改革対応：令和 6 年度より）	1.介護報酬改定（令和 3 年度）の情報収集 2.第 8 期益田市介護保険事業計画（令和 3 年度）えっとまめなプラン）の情報収集
		b.情報の集約、分析を中心となって担う体制の検討	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.情報管理室の担当者を 10/1 付で病院事業部総務課との兼務とする人事を行い、病院内での情報把握が可能な体制とした	1.情報管理室の活用方法の検討 2.医療センター内の各部のスムーズな情報交換の方法を検討 3.医療センター内にある情報の把握（各システムで把握可能な情報） ・10/1 より担当者を病院総務課兼務とし、病院内の情報が把握できるようにする。	
	②少子高齢化社会に対応した医師会独自の地域医療・介護の体制づくり ・「地域包括ケアシステム」の推進 ・地域完結型社会の構築 ・地域医療、在宅医療への新たな対応	a.地域のニーズの把握	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.社会構造の変化に伴う地域のニーズについて、圏域内の諸会議を通じて随時把握・共有している 【統括部】 1.関連事業所、地域住民のニーズを収集した		
		b.先進事例等の調査と検討	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.統括部とともに先進事例等を調査し、地域の医療介護に資する新たな取り組みについて検討中 【統括部】 1.先進事例の情報収集に努めた		
		c.会員との連携	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.会員と連携し、医師会資源を有効に活用した医療・介護の支援体制の構築に努めている 【統括部】 1.会員訪問は、コロナのため今年度は中止した 2.医療連携推進コーディネーター事業により意見交換会を 3 回実施した		
		d.行政等との連携	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.益田市や保健所と協議等を行いながら連携を進めた 【統括部】 1.医療連携推進コーディネーター事業、圏域課題解決推進事業、在宅医療介護連携推進事業において、保健所、益田市との話し合いをしながら実施した		

令和 2 年度 公益社団法人 益田市医師会 事業報告

			計画年度			事業本部・その他	病院事業部	くにさき苑事業部
推進課題	対応方針	実施計画（評価指標）	02	03	04	事業報告	事業報告	事業報告
		e.医師会独自の「医療・介護推進プロジェクト」の推進 ・益田市との意見交換 ・医師会の役割（方針）検討 ・体制等検討 ・関係事業の実施	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.「地域包括ケアシステム」への対応（役割）と必要な体制について検討 2.地域ケア会議等への参加を通して、医師会施設や活動を PR し利用の促進を図る 3.「地域医療介護連携統括部」を核とした「医療・介護推進プロジェクト」を推進 【統括部】 1.医療連携推進コーディネーター事業、圏域課題解決推進事業、在宅医療介護連携推進事業で、圏域の医療実務者会議（まめネット Web 会議にて）を 3 回、在宅医の意見交換会を 3 回実施した。継続して検討していく。		
		f.地域内完結率の向上	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.統括部・病院事業部と協力し、かかりつけ医との連携強化を図っている（在宅療養後方支援病院の円滑運用） 2.近隣病院・介護事業所との連携強化（連携会議や各種研修会等実施） 【統括部】 1.退院支援体制は 人員減により不十分だった 2.病床活用カンファレンス、医療・介護連携委員会の活用により、くにさきの病床活用が効果的にできた 3.圏域の医療実務者会議（まめネット Web 会議にて）を 3 回開催し入退院連携を検討した。 特にコロナの病床確保に効果的だった		
		g.在宅医療を維持するための体制の検討	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.在宅療養後方支援病院の活用を推進するため統括部を中心に利用方法の簡素化を図った 2.医療連携コーディネーター事業により、訪問診療維持のための新たな仕組み等について検討するため、在宅医による意見交換会を開催した。 【統括部】 1. 在宅療養後方支援病院の登録者が 3 月末 79 名と急増した。 利用者は 53 名 2.在宅医との意見交換会で、在宅医支援システムや特定看護師の活用について検討した。 施設看取り代診医システムとそのネットワークができた。 継続して検討していく		
		h.へき地医療を維持するための体制の検討	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.へき地での医療拠点確保や中山間地域の交通手段の確保、通院困難者に対する巡回型診療体制等、将来に向けた総合的な課題・施策について検討する（ コロナのため未実施 ）		
		i.地域密着型サービスや在宅入居への業務進出の検討	⇒	⇒	⇒	【事業本部】 1.他法人の地域密着型サービスや住宅入居等の情報収集を行い地域ニーズを把握する		

